り、西土にいふは衝立屏風多し、摺畳のものを連屏といへり、會典日本貢物に塗金裝綵屏風あり、枕屏風も西土の書に見えたり、漢書の御屏風、雲圖抄にみゆ、大宗、戲騎を圖畫すといふ、地獄變の御屏風あり、地獄の變相なるべし、潛確類書に、吳生畫景雲寺地獄變相、時京師屠沽漁器之輩、覽之懼罪改業者往々有之、率皆脩善とみゆ、びいどろ屏風は雲南より出るよし、華夷珍玩考に見えたり、料絲燈屏風といへり、一帖といふ事、江記にみゆ、一隻なり、

〔空穗物語國讓下〕おまし所あたらしく、きよげなるびやうぶ几帳など立たる、とりつかひ給べきてうどなきよし、

〔源氏物語二十玉鬘〕此へだてによりきたり、けどをくへだてつるびやうぶだつもの、名殘なくをしあけて、〇下略

屏風初見

〔源氏物語五十東屋〕あきたるさうじを今すこしをしあけて、屏風のつまよりのぞき給に、宮とはおもひもかけず、例こなたにきなれたる人にやあらんと思て、おきあがりたるやうだい、いとおかしうみゆるに、例の御こゝろはすぐし給はで、きぬのすそをとらへ給て、こなたのさうじはひきたて給て、屏風のはざまにゐ給ひぬ、

〔日本書紀二十九天武〕朱鳥元年四月戊子、新羅進調從筑紫貢上、〇中略亦智祥健勳等別獻物、金銀、錦霞、綾羅、金器、屏風、鞍皮、絹布、藥物之類、各六十餘種、

〔和事始三器用〕屏風ビヤウブ

天武天皇朱鳥元年、新羅國より種々の物を調貢す、又智祥健勳等が獻るものゝ中に屏風あり、日本紀に見えたり、是より屏風ありけるにや、

屏風製作

〔延喜式十七内匠〕年料五尺屏風骨五十帖料、榲樹大七十五材、以一材半充一帖、五十材近江國所進、廿五材上奏所請、檜樹十材、七材押木一千二百枚料、三材鑄釘押形料、波多板四枚、作鑄物押形料、熟銅百卅二斤十三兩二分、卅九斤十三兩二分作肱金一千二百枚料、以十二兩充廿四枚、斤別加